

世田谷の自由な表現

こんなに楽しい世田谷美術館の収蔵品

Museum Collection II
Arai Ryoji Selects
Thrilling Art
from the Museum Collection

開館時間 午前10時～午後6時
(入場は午後5時30分まで)

休館日 毎週月曜日
(ただし、祝・休日と重なった場合は開館、
翌平日休館) *9月19日(月・祝)・
10月10日(月・祝)は開館、
9月20日(火)・10月11日(火)は休館

観覧料 一般200円(160円)、
大高生150円(120円)、
65歳以上/中小生100円(80円)

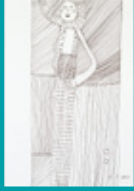
*障害者の方は100円(80円)。
ただし小・中・高・大学生の障害者は無料。
介助者(当該障害者1名につき1名)は無料。
証明書をご提示のうえ、お申し出ください。
*()内は20名以上の団体料金
*世田谷区内在住・在校の小・中学生は
土、日、祝・休日、夏休み期間は無料

2022年

8月6日(土)→

11月20日(日)

世田谷美術館



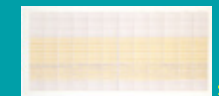
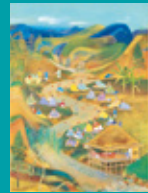
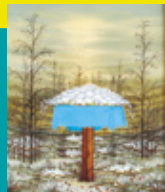
Museum Collection II
Arai Ryoji Selects
 Thrilling Art
 from the Museum Collection

荒井良二の アール・ブルット!

こんなに楽しい世田谷美術館の収蔵品

世田谷美術館では、開館以来、世田谷にゆかりのある作家をはじめ、芸術における素朴な表現に着目した展覧会を開催してきました。とりわけ、アンリ・ルソーをはじめとした素朴派、正式な美術教育を受けることなく制作されたフォーク・アートやアール・ブリュット、アウトサイダー・アートなどは、国内では他館に先駆けて収集し、美術への親しみやすさも大切に活動を続けています。

本展は、絵本の制作にとどまらず、多彩な表現活動で知られる荒井良二氏に、世田谷美術館のユニークなコレクションの中から、独自の視点で作品を選んでいただき、これまでとは異なる見方でその魅力をお伝えしようとするものです。荒井良二氏の絵画作品なども、当館コレクションとともに会場に並びます。どうぞお楽しみに。



荒井良二 (あらいりょうじ / 絵本作家)

1956年、山形県生まれ。日本大学芸術学部美術学科を卒業後、1990年から絵本制作を開始。2005年、アストリッド・リンドグレーン記念文学賞を受賞。2009年、世田谷文学館で「進める荒井良二のいろいろ展」を開催。2014年から18年まで「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」芸術監督を務め、ジャンルを横断する旺盛な活動を展開。

- 1 ニキド・サンファル《ナナ》1981年
- 2 カロロ・ジネリ《無題》1968年
- 3 アンリ・ルソー《サンニコラ河岸から見たシテ島》1887-88年頃
- 4 コハン・ハウザー《飛行機と星》1993年
- 5 カール・クリスティアン・テューゲン《狩から帰る》制作年不詳
- 6 花森安治《表紙原画「暮しの手帖」2世紀52号》1978年
- 7 ウィリアム・ホーキンス《バッファロー #6》1989年
- 8 オスヴァルト・チルトナー《婦人(G.グリムトを模して)》1973年
- 9 エーリッヒ・ベデカー《カウボーイ》制作年不詳
- 10 篠原 有司男《モーターサイクル・スパイダーマン》1984年
- 11 オルネオーレ・メテリ《スザンナ》1938年
- 12 アウグスト・ヴァッラ《森のトカゲ》1993年
- 13 デイヴィッド・ホックニー《グレゴリーのイメージ》1984-85年
- 14 アントニオ・ボティロ《空を見上げる人たち》1990年
- 15 塩田 和《子供》1942年
- 16 ジャン＝ミシェル・バスキア《無題》1985年
- 17 章間 齋生《ねぐらにかえる魂》1975年
- 18 ルイ・ヴィヴァン《メドラノ・サーカス》1931年
- 19 ルイ・ステア《身振りをする6人》1937年
- 20 ヴィヴァン・ラツコヴィッチ《散在する村落》1983年
- 21 ロジャー・アックリング《聖なる島・リンディスファーン》1986年
- 22 福田 豊四郎《曲水図》1927年
- 23 ロジャー・ヒルトン《猫》制作年不詳
- 24 フランツ・カムランダー《キリン》1992年
- 25 モリス・ハーシュフィールド《母と子》1942年
- 26 グランマ・マフラン《とれたての野菜》1983年
- 27 ケン・キフ《黄色い丘》1989-90年
- 28 河原 温《20,031 days》1987年
- 29 マックス・エルンスト《ヤヌス》1973年

同時開催企画展(1階展示室)

- こくまちゃんとしろくまちゃん 絵本作家・わかやまけんの世界 7月2日(土) - 9月4日(日)
- 宮城壮太郎展 使えるもの、美しいもの 9月17日(土) - 11月13日(日)

次回収蔵品展(2階展示室)

- ミュージアム コレクションⅢ それぞれのふたり 萩原朔美と榎本了彦 12月3日(土) - 2023年4月9日(日)

世田谷美術館
 SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2
 TEL.03-3415-6011(代表)
<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>
 展覧会のご案内 050-5541-8600(ハローダイヤル)

交通案内

- 東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩17分、もしくは美術館行バスA「美術館」下車徒歩3分
- 小田急線「成城学園前」駅下車、南口から渋谷駅行バスB「砧町」下車徒歩10分
- 小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅行バスC「美術館入口」下車徒歩5分
- 来館者専用駐車場(60台、無料)：東名高速道路高架下、厚木方面側道400m先。美術館まで徒歩5分。

※新型コロナウイルス感染症の感染予防および拡散抑制のため、ご入館に際し、マスクの着用と検温等のご協力をお願いしております。※展覧会の会期および内容が急遽変更や中止になる場合もございます。※会期中の最新情報は美術館ウェブサイト等でお知らせします。

